

東村山稲門会ニュース 第31号

H11年10月 2日 発行

発行責任者、大西 幸夫

編集局 塩見 田口

井垣 伊藤

事務局、042-394-6951 小亀 輝雄

会からのお知らせ

◎. 定例役員会

日時：11月6日(土) 14.00～14.30 発送準備(有志による)

14.30～16.30 役員会

場所：市民センター別館、第1会議室

なお、一般会員の方も時間の都合のつく方は気楽にご参加ください

◎. 第4回、年次総会および懇親会の開催案内(別紙参照)

日時：11月20日(土) 13.00～講演会

15.00～総会議事

15.30～落語 桂 小文(早稲田大学S62法卒)

17.00～懇親会

場所：東村山市民センター別館、第1会議室(東村山駅東口下車、徒歩約10分
東村山市役所の向かい側)

◎ 関連外部会合への出席

① 9月22日(水) 武蔵野稲門会年次総会(吉祥寺東急イン) 大西出席

② 9月29日(水) 三多摩稲門連合会ゴルフコンペ(西武園ゴルフ場)

井垣、大西、木谷、深川が参加

◎ ポストマンについて

現在、会報・ニュースなどは有志会員のお世話により会員の皆様にお届けしておりますが、各町を受け持って頂いている方々は下記の通りです。

秋津町：大西幸夫、久保英二

諏訪町：木谷 肇、久世利夫

青葉町：土橋雄次

野口町：多田 貢、

久米川町：当間昭治、町田和夫

美住町：三宅良太

恩多町：井垣和太、小亀輝雄、

富士見町：伊藤友己、田口政澄

塩見之一、長井 治

廻田町：江藤昌明

萩山町：崎山裕子、山下邦康

多摩湖町：戸田志郎

なお、栄町および本町には13名の会員が居られますが、現在ポストマンが居りませんので、郵送して居ります、どなたか引き受けて頂ける方は居られないでしょうか？。

もし、居られたら、事務局あてご連絡下さい、

◎ 9月例会の第5回雑学講座『蘇る早稲田スポーツ』講演要旨

講師：関 一誠さん 早稲田大学人間科学部教授
(S29年文学部卒、会員)

早稲田大学のスポーツ活動の諸組織とその活動内容、歴史、活躍したアスリート達などわれわれの知らなかった面をOHPで表示しながら丁寧に説明を頂き、大変興味深い内容でした。

特に、早稲田スポーツの凋落が問題にされるが、それはマスコミの材料として取り上げられる、マラソン、ラグビー、野球などにその傾向があるため目立つので、全体を見れば、結構活躍している部門もあるとのこと、ただし、いろいろの要素を加味して作られている総合評点で、98年度が全国大学中で7位は良とするか、評価は別れることでしょう。

とにかく奥島総長も心配され、スポーツ振興協議会を発足させたり、自己推薦の枠を広げたり、面接を重視したりする入試改革（スポーツのためだけではないが）も検討されているので、その結果を期待したいものです。

以下に当日のレジメを記載して置きます。

『蘇る早稲田スポーツ』

1. スポーツ活動を管轄する部所

早稲田大学の組織
体育局の組織・運営
体育局の活動内容

2. 早稲田スポーツの原点

1882（明治12）年 東京専門学校創立
1897年 東京専門学校体育部 七徳館、撃剣・柔術
（体育・スポーツ100周年起算年）
1901年 野球部
1902年 早稲田大学体育部 剣道・柔道・野球・庭球・漕艇・弓術
1903年 第1回早慶野球戦

3. 体育各部の現状

部員の減少傾向 練習場 合宿所

4. 活躍したアスリートたち

5. 体育各部支援体制

スポーツ振興協議会
入試改革

6. 体育各部への期待

同好会だより

絵画同好会

今年の夏は残暑が厳しく絵を描く者にとって好ましい環境とは言えませんでした。例年と違って個人的に絵画作品を展示する機会に恵まれ新作では足らず昔の作品に手を入れて出品するなどかなりハードでした。展覧会の主催が稲門会で無かったことが残念ですが市美術連盟、市社会福祉協議会、市老人連合会などは多数の作品を集め盛況でした。

習作の場については市民参加団体でありませんと各公民館は有料となり、特に中央公民館は使用申込みが多く中々とれないのが現実でありましたが、長年の懸案でありました筆者の地元の恩多町文化センター新設が本決まりとなり、かねてから部屋の位置や照明・水回りなどの設備について折りに触れ「つくる会」から参考意見の問い合わせを受けており、近い将来に使用可能となります。会員のたまり場としてのアトリエが無かったことが会発展の妨げとなっておりましたが、一歩前進と言えましょう。(塩 見)

○ スケッチ会のお知らせ

10月19日(火)にスケッチ会を行います。

集合場所 恩多町 野火止用水沿い水車小屋(初めての方は下記幹事にお問い合わせ下さい。)

集合時刻 午後 1時30分

所持品 水彩・墨彩などのスケッチ用具。

その他 雨天の場合は中止します。

問い合わせ先 長井 ☎ 393-0795 or 塩見 ☎ 395-3718

麻雀同好会

第9回麻雀大会は予定どおり9月19日(日)に初参加の多田氏を

迎え、久しぶりの4卓16名で大熱戦がくりひろげられました。

栄えある優勝は谷城、準優勝田口、3位木谷、4位土橋の各氏でした。

今回は常勝軍の三宅、大西、優勝、準優勝経験者の山下、鈴木雀士が

ふるはず、江藤、久世、長井、田口雀士が2卓で、1卓の優勝候補を

脅かし、いよいよ我が稲門会の麻雀も世代交代の時期にはいった様である。

さて本年最後の第10回麻雀大会は12月12日(日)におこなう予定です。

忘年会も兼ねて盛大にやりたいと思いますので是非女性のメンバーも

参加していただきたくお願いいたします。

小野 (391-9523)

田口 (395-4077)

以上



第三回 山とハイキングの会報告

第三回山とハイキングの会は、9月18日(土)秋雨の中棒の嶺(畠山重忠が登山中に棒を折ったので別名棒の折山ともいう)969メートルにチャレンジすることになりました。生憎の天候のため参加者は4名と小グループとなりました。

青梅線川井駅よりバスで上日向まで10分、それから20分ほど舗装道路を歩いて、奥茶屋からいよいよ登山道に分け入りました。前々日からの雨の登山道を気にしながら、土橋、久保の両迷ガイドに前後をガードされて登り始めました。途中視界は林ばかりで、前方を見上げると絶望感を覚えそうなので、ただひたすらどの場所が滑らないかと前の人の足を見ながら歩を運ぶだけでした。20分に5分の休憩をとりながら予定より20分早い1時間40分で山頂に到着し、久保ガイドから今日のパーティーは(年の割には)優秀だとお褒めの言葉を頂きました。しかし折角山頂についたものの眺望は全くゼロで残念な思いをしました。また、屋根付きの小屋は既に先住者がいて、やむを得ず桜の木の下で傘をさしての昼食となりました。

帰路は、名栗川橋、飯能方面へ下山しましたが、この道が大変、滑らないよう時には蟹の横這いよろしく斜面を愛妻から借りてきた杖で体を支えながら下山しました。登山と同様予定より20分早い1時間40分で名栗川バス停に到着し、平均年齢63歳にしては立派な健脚ぶりだと土橋ガイドから「初級の中」を認定され、この調子なら当分介護保険のサービスは必要ないと、大いに自信をもちました。

バス待ち時間に疲れを癒すビール欲しさに、次のバス停の酒屋まで、地元のお婆さんの5分(実際は10分)に乘せられ、全員があたかも一日の歩き初めのような足取りで歩き出しました。

やっとありついたそのビールの美味さに一日の健康な疲れと人生の満足感を得たような楽しいハイキングの会でした。 松永 常尚 (S30・法)

参加者 大西幸夫 土橋雄次 久保栄二 松永常尚



WASEDA TOPICS

大隈重信像・高田早苗像の修復

大隈講堂に正対して立つガウン姿の大隈重信像(昭和7年、朝倉文夫作)とその正面向かって右側にある高田早苗像(昭和7年藤井浩祐作)の錆の付着や酸性雨の影響により、風貌が害されていることもあり、建立以来始めて修復されることになりました。この修復に先立ち、銅像では珍しい御霊抜き(みたまぬき)が9月15日に行われ、その後補彩がおこなわれており、9月下旬には作成当時の黒褐色の銅像がお目見えする予定です。

早大初の女子寮(仮称:市嶋寮)起工式

早稲田大学草創期に活躍し、学園の基礎を築き早稲田の四尊のひとりにあげられる市嶋謙吉の子孫であられる市詩嶋信様より文京区千駄木に土地約1000坪と家屋の寄贈を受け早稲田大学ではじめて女子寮を建設することになり、7月16日起工式がおこなわれました。

園芸の会

幹事 三宅 良太 Tel 042-394-5298

10月例会のお知らせ(再掲)

10月の例会は9月のニュースでお伝え致しました通り、可能な方は自分自分で種から苗を育てて持ちよることになりました。大勢お集まり下さい。

日時：10月30(土) 14時

場所：東村山市民センター 別館2階(予定)

郷土史の会

幹事 三宅 良太 Tel 042-394-5298

11月例会のお知らせ

次回郷土史の会を下記の通り催します。大変興味深いお話が伺えると存じますので、お誘い合わせ多数お集まり下さいますようご案内申し上げます。

日時：平成11年11月28日(日) 14時～16時

場所：ふるさと歴史館研修室(予定)

会費：一人500円

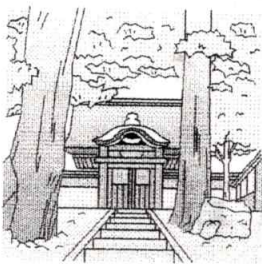
テーマ：東村山よもやま話

講師：池田宗弘先生

略歴：1939年生れ、武蔵野美術大学彫刻科卒

自由美術協会会員、多摩美術彫刻科講師

彫刻美術研究室いけだ(市内秋津町)



囲碁・将棋の会

幹事：鈴木 国夫

Tel 042-394-2052

：江藤 昌明

Tel 042-391-4076

第2回の会合を下記のとおり開催します。前回同様盛会となりなすよう皆様のご参加をお願いいたします。(初心者の方もご遠慮なく)

前回は碁盤5面、将棋盤3面を用意できましたが、参加者が増えると足りなくなりますので、折りたたみの碁盤、将棋盤、碁石、駒をお持ちの方はご持参下さるようお願いいたします。なお、手合割については

①段級が分かっている人との対戦成績を基準にする

②会員の自己申告とする③点数制をとる等の方法が考えられますが、どの様な決め方がよいか、当日の会合で協議したいと思います。

記

日時：10月16日(土) 午後1時～5時

場所：市民センター(市役所前) 第6会議室

会費：無料



○第6回会長杯コンペ10月16日(土)迫る

平成11年度秋期の会長杯コンペが10月16日(土)に「こだまゴルフクラブ」(埼玉)で開催されます。会員の参加予定者は9月末現在で14名ですので、4組でのスタートとなります。今回から優勝者は副賞として素晴らしいマイグラスがもらえます。

あと2名のエントリー枠がありますので、ご都合のつく方おられましたら幹事役までお電話下さい。奥様や、ご家族、或いはご友人でも、ゲスト出場歓迎ですのでお気軽に御連絡下さい。

記

日 時	平成11年10月16日(土)
	9:45 AM スタート(4組)
場 所	こだまゴルフクラブ
	埼玉県児玉郡児玉町入浅見1060
費 用	参加費 5,000円(賞品・パーティー費用)
	プレー費 26,500円(税・飲食費別)
	(カード会員は2,000円割引)
幹 事 役	深 川 勝 昭 (41法)
幹 事 役	井 垣 和 太 (37商)(原田氏の代理)

(井垣 記)

編集後記

稲門会ニュースは第30号発行の節目を越え紙面の印象を替えてつあります。現在、筆者を含む6人が稲門会ニュースのために毎月キーボードに取組み頁毎に個性的な紙面を創っておりますが当初予想しておりましたイメージ作りのほかにプリンタの違いが予想外の好結果を生みました。

本紙の構成は会則に倣らぬ範囲で「型にはめることなく自由に」との前提で続けて来ましたが、筆者も歳が歳ですのでやがて退いた後も、早稲田らしさを失わぬことを願っております。

今回は大西会長以外の編集実務担当の方々に編集後記を執筆して戴き着順に掲載しました。

(塩見)

◎ 早いもので麻雀同好会のお手伝いを始めて3年になります。第一回は97年8月14日、10名2卓でスタートいたしました。今年末、第10回大会を迎えますが、練習会もいれるとすでに11回おこなっております。麻雀荘の三上氏ご夫妻のご好意により、毎回表彰式のあとはその場で懇親会をおこなっておりますが、皆さん多趣味で他同好会の打ち合せ、確認、新同好会結成の話等いつも盛り上がります。東村山稲門会会報創刊号で書かせていただきましたがこの会が、点が線になり徐々に面になりつつある事を実感として味わいつつある今日この頃です。(昭和36年理工学部卒 田口 政澄)

㊦ 東村山稲門会も、1年半の準備期間を経て平成8年11月に設立され、来月には創立4年目を迎えることになります。この間多くの会員の努力により同好会活動もさかんになり、またポストマン制度も定着し、他の稲門会からも評価されています。しかし、稲門会設立の趣旨のうち会員相互の親睦をはかり、親しい友人を作ることには大変な成果をあげ、地元での生活に大きな広がりはできましたが、地域社会への働きかけや大学に対する支援については、まだまだの感は否めません。早稲田にはまだ奨学金が欲しくても貰えない学生が100.0人位いると言われています。2007年の創立125年に向けて各稲門会が毎年1人の学生にでも奨学金が支給できるような組織になればと期待しますし、当稲門会が率先して実現できる方法を考えて行きたいと思います。そういうことから、現役学生や若い校友の稲門会活動への参加も期待できるのではないのでしょうか。

小亀 輝雄（事務局長）（S34・商）

㊦ 春秋2連覇が期待される東京六大学の対東大戦を観戦しながら感じた事。我々の時代は早稲田が得点したときには「紺碧の空」を謳って氣勢を上げたものだが、先日見ていたら「都の西北早稲田の森に 聳ゆる葦は我らが母校 ワセダ ワセダ ワセダ ワセダ ワセダ ワセダ ワセダ」とハイテンポで三番まで中抜きで歌って肩を組みながら喜びを表していた。

「エッ。校歌の縮小版?」。四十有余年の間校歌を斉唱するときは、どんなに酔っぱらっていても「右手をたかーく・・・」の一声でしゃきっとしてきた身には何とも奇妙な思いにかられる場面であった。仮に「君が代は 苔のむすまで」と中抜きで歌ったとしたらどんなものだろうか。手抜き料理で育った世代ならではの「校歌」感なのか。時代の変化が思わぬところに出ているのだなと神宮のスタンドで思った次第である。（井垣 和太 昭37・商）

㊦ 世はネット時代だと言われる。近々電子書籍の配信実験も始まる。私もこの夏、自分の住むマンション管理組合の委員会に参加して50ページ程の報告書を作成するのに、電子メールでお互いに文書作成から校正までやってみた。何も同じマンションの中でという思いもあったが、時間に煩わされずにスムーズに事が運んだ。と書くと手放しでネット社会を礼賛している様だか、実はそうでもない。コンピューターメーカーが宣伝する程上手にネットは機能しない。機種もソフトの来歴も違うパソコン同士を繋げるのは結構しんどい話なのだ。我々の委員会でネットが成功したのは、実は何回も話し合う機会があって、パソコンやソフトの違い、それに扱っている当の本人達の性格も知り抜いていたからだと思う。インターフェイスとは顔と顔を突き合わせる事だから、どうか生の仲間同士の触れ合いをお忘れなく。（伊藤 友己 昭51・政経）

㊦ 編集後記の最下段に若干の余白が生じましたので、「埋めくさ」的意図でまとめを試みてみます。文字が読めるようになってからの約70年の間に膨大な量の文字を読み、さしあたりすぐに役立つ部分のみを記憶し、後は必要になってから読み返すと言うテクニックを身につけた学生時代を経て、職場の多忙な上司・同僚宛の簡潔で要を得たレポートを書き続けている内に、仕事柄から情報社会推進の担い手に加わる経験をして退職に到ったのが職歴の概要ですが、文字情報に限って言いましても読む側と書く側との間隔が限り無く狭まっているのが現代の特徴です。特に稲門会では優れた書き手が多数居られる上に、パソコンが家庭に入りつつありますので稲門会ニュースの将来を楽しみにしておりますと同時に、結果を見届けるため健康に留意しております。（塩 見）

稲門俳壇・歌壇（十月）

塩 見 之 一

溝萩の茎しなやかに俄か雨

彼岸花天の恵みを受けて立つ

ベゴニヤの鉢陰長く時を知る

時ならぬ雨に打たれて溝萩の

茎柔らかに逆らうもせず

毒性の花と言われし曼珠沙華

美しき赤辺りを圧す

ベゴニヤの盛りをノートに描きとめて

時間の経過忘れ染しむ